

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題 「現代ムスリム知識人の変容と交流」 令和3年度第3回研究会

日時 令和4年2月19日土曜日

午後1時～午後3時

場所 Zoomによるオンライン開催

報告

岡崎弘樹（AA研共同研究員、JSPS特別研究員PD、千葉大学）

「イスラーム改革主義思想における神学と社会学の併存」

和崎聖日（AA研共同研究員、中部大学講師）

「ウズベキスタンの現代イスラーム思想：ムハンマド=サーディク・ムハンマド=ユースフの『公開書簡』から」

※公開（参加者10名）

本研究会では近代のイスラーム改革主義と現代のウズベキスタンの事例について報告がなされた。

イスラーム改革主義（岡崎報告）については、20世紀のムスリム知識人を（1）「原理主義」の潮流、（2）メディアに乗ったムスリム知識人、（3）「近代への再統合」派の3つに便宜的に分類した上で、（1）については思想内容よりも過激派への影響力に関心が寄せられてきたこと、（2）については過激派への対抗軸として社会的基盤への影響力が注目されてきたこと、（3）については思想自体が関心の中心だが神学論理中心主義（theologocentrism）に陥ることが問題として指摘された。この上で、現代イスラーム「思想」研究の難しさとして、神学的見地と社会学の見地の境界をどう設けるか（設けないか）の問題があることを指摘し、これについてのムハンマド・アブドゥ、カーシム・アミン、アリー・アブドゥッラージクらの見解を論じた。

ウズベキスタン（和崎報告）では、ムハンマド=サーディク・ムハンマド=ユースフの著書『公開書簡』が取り上げられた。同著はイスラーム世界の凋落の主たる原因を、「ムスリム社会内内部から生まれた愚かな集団による無知蒙昧な活動」と設定する。この背景には刊行

前年の2014年に過激派組織「イスラーム国」がカリフ制国家を宣言したことがあり、ウズベキスタン国内のムスリムが同派に合流しないよう呼びかけることが目的の一つであった。また同著では、「物事の正確な洞察と細部にまでわたる理解に基づき、人間の力と能力、強さ、器量に応じて物事をなすこと」と定義される「イスティターアの法学」（2012年にアブダビで開かれた学術会議で、当時ムスリム・ウラマー世界連盟の副会長であったモーリタニアのアブドゥッラー・イブン・バイヤ（1935-）が提案したもの）が説明された。

質疑では、近代改革主義者たちの西洋近代解釈、またイスティターア法学に取っての仮想敵等について議論された。

（了）